エッセイ　あれも見たい！これも撮りたい！〜私の昆虫撮影記〜（その3　空飛ぶハサミムシ）

千葉大学大学院 准教授　野村　昌史（のむら　まさし）

昆虫というと，どんな種類やグループを思い浮かべるだろうか。まずチョウやトンボ等飛翔する昆虫を思い浮かべる人も少なくないと思う。これらのグループに限らず，ハエや，カ，ハチ等実に多くの昆虫たちが飛ぶことができる。昆虫類で一番大きなグループであるコウチュウも，硬い鞘バネの下には膜状の翅をもっているので，飛翔可能である。飛翔により空中を移動できるということは，活動範囲をまさに飛躍的に広げることができるし，天敵である鳥やトカゲ等の攻撃から逃れられる。こうして翅をもつ昆虫たちが，現在地球上で繁栄している。

しかし昆虫の中には，獲得した翅を進化の途中で失ったグループも存在する。例えばノミの仲間は，すばらしい跳躍力と引き替えに翅を失ったので，翅をもたない昆虫の代表例といえるだろう。このほかにも植物の枝や葉に擬態することで，逃げるより動かない選択をしたナナフシのグループの多くは，翅が小型化もしくは失っている。またバッタやコウチュウの仲間でも，棲んでいる場所やどんな生活をしているかによって，翅が退化した種類が数多く見られる。一方でチョウは全種が飛翔できるが，チョウと同じグループに属するガのなかには，翅を失ったものもいる。例えば秋から厳冬期に出現するフユシャク類は，メスの翅が退化している。天敵の活動時期から逃れるために，厳冬期のそれも夜間に活動するフユシャクの仲間は，熱が逃げないように翅を退化させたと説明されるが，実際に観察してみると，翅がない種や短い翅をもつ種等，その形態は様々である。しかしこんな寒い中で生殖する道を選んだ彼らを見ていると（図-1），進化の不思議さを感じてしまう。

さて昆虫には飛べないグループもいることは，特に驚くことではないかもしれないが，飛べないと思っていたグループに，飛べる種がいるのを知ったのは衝撃的であった。それは北海道の十勝地方に出かけたときだった。そこで私は尾部に大きなハサミをもったハサミムシを見つけた。でもそのハサミは物を挟めるような形態ではなく，太い尾肢のように見えたので印象に残った。あちらこちらに見られたので，写真を撮ろうとヨモギの葉にいた個体をファインダー越しに覗いていると，せわしなくしていた個体が，葉の上でじっとしていたと思ったら，いきなり白い翅が広がり（図-2），すぐにたたまれた。そしてほかの葉に移ってまた翅を広げ，今度は飛んでいってしまった。まさかの飛翔に本当に驚いたが，「ハサミ」の形態から，この虫はコウチュウのハネカクシの仲間なのだと思い直し，手持ちの図鑑で調べたが種名はわからなかった。その後大学に戻り詳しい甲虫図鑑を調べても載っておらず途方に暮れたが，もしかしてハサミムシ？と図鑑を開くと，そこにその昆虫がいた…エゾハサミムシだった。太い尾肢に見えたものは，やはり「ハサミ」だったのだ。まさかハサミムシに飛翔できる種がいるとは思いもよらなかった。あのとき現地でハサミムシが飛んだと認識していたら，もっと思い入れの違う写真が撮影できたかもしれない。

私は「ハサミムシは飛べない」と決めつけていたが，実際には飛翔可能な種もいたわけで，本当にびっくりした。そして昆虫は本当に奥が深いと感心するとともに，思い込みをしていた自分を戒めた。ほかの昆虫にもそんな「意外な」種がいるのだろうか…。頭を柔らかくして観察しないと…。

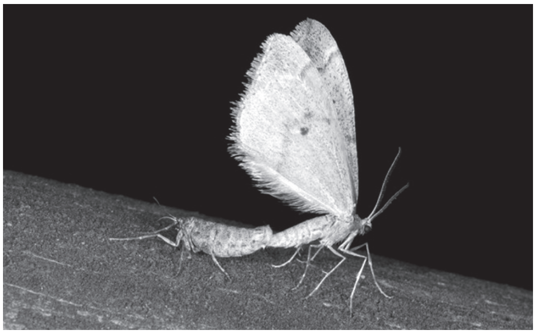

図-1　ウスバフユシャク交尾（左がメス）

図-2　翅を広げたエゾハサミムシ

植物防疫